

あなたの声を町政に

一般質問は、一人25分
一問一答方式で行いました

問 新年度の重点施策は

佐伯卓師議員

答 財政健全化と 少子化・定住対策

Q 経済不況・雇用不安が解消しない中、国の事業仕分けで廃止や見直しも行われている。本町への影響と、22年度予算編成方針および重点施策・新規事業は。

A 町長 まだ不透明だが、農道改良を始め多くの事業が対象になり、カットも予想され影響は大きい。

新年度予算は総額91億円を中心に考え、財政健全化を継続する。少子化・定住対策で結婚前の支援や保育所のゼロ歳からの受け入れ、保育料は段階的に無料化の方向で考える。新規事業でトマト・ブドウの小型団地化への調査、新規就農者対策も考

Q 本町の新エネルギー対策は、森林の育成保全対策にもなるバイオマスの研究が必要だが、現在では太陽光発電が一番有効だ。22年度中の設置が有効だが補助制度の考えは。

A 町長 現在、小型水力発電・バイオマス・太陽光発電を検討している。

新年度から、太陽光発電に対する補助制度も実施する計画だ。



ながの村イベント

問 どうする三和地区 学校統合

木野山孝志議員

答 団地開発に学校は必要だ

Q 町長は政策判断として「来見小の統合は当分の間、見合わせる」と表明されたが教育委員会との合意は出来ているのか。

A 町長 教育委員会も苦渋の判断であったが理解はいただいたと思う。

Q 子どもたちの教育環境の整備と団地開発を天秤にかけられるのか。

A 町長 天秤にかけるのではなくどちらも大事だ。

Q 団地開発に小学校は必要なのか。団地のイメージは。近隣の団地と差別化を図れ。

A 町長 小学校と定住団地は相関関係にあり、学校は必要だ。自然に恵まれ心が癒される、若者から中高年を含め田舎暮らしが

出来る団地を作りたい。農業支援で差別化を図る。

Q 来見小の子どもたちはどうなる。

A 町長 耐震構造はクリアしている。複式は臨時教師の配置や交流事業でカバー出来る。

Q 高蓋地区への対応は。意見をしっかりと受け止めて対処を。

A 町長 学校が無くなる事については教育委員会や地元と協議し、出来るだけのことはしたいが限度もある。

Q 新しい過疎計画はどうする。

A 町長 若干の見直しをする。少子高齢化対策、農業政策、医療・福祉対策、定住対策が大きな課題だ。

これに取り組む。

A 企画財政課長 計画の中でソフト事業も含めたい。単年度で大きな財源が必要な新規事業を組んだ場合は事業年度の調整を行う。原則として継続事業は見直さない。

問 本町の不況対策は

村上克朗議員

答 緊急に検討する

Q 町内企業は仕事量が落ち込み、所得の減少や雇用環境の悪化など危機的な状況にある。雇用の安定など、地域のくらしへの見通しは。

A 町長 事業所の経営基盤の安定に向け、県の雇用創出資金に町も加算し、実態に即した支援をした

い。

Q 国・県の補助金を元に総合的な窓口を設け、職業の斡旋や臨時的雇用の創出を行うべき

A 町長 国・県の補助金を元に総合的な窓口を設け、職業の斡旋や臨時的雇用の創出を行うべき

Q 雇用確保が重要だが、人手が必要な介護と医療・看護や農業に人材が集まる制度の構築が必要では。

A 町長 特に、農業後継者は育たず年々減少している。特産品、地域活性化開発に思い切った補助金を。



トマト団地（豊松）

A 町長 集落法人に対する国・県の支援は呼び水の補助金で、補助金が無くなったとき、収支が悪化し極めて深刻である。付加価値の高い農産物を検討している。

Q 農業への企業誘致を。

A 産業課長 地元養鶏業者の減少で他県からの企業の農業への参入を促したい。

Q 子育て・定住支援制度が平成22年3月31日で終了する。やまなみ商品券は商工振興にもつながっている。今後の取り組みは。

A 町長 この制度は拡大し継続する。

問 町行造林の施業 管理委託を

瀬尾征爾議員

答 新年度予算から対応したい

Q 300haに及ぶ町行造林は本町最大の物的財産であるが、この管理が極めてスサンだ。契約書の保管・内容の把握・施業歴・施業計画書など必要不可欠な書類整備ができていない。植林から保育に携わってきた林業団体に長期施業管理を委託するのがベストではないか。

A 町長 地権者の方から手入れが遅れているということは以前から聞き及んで

いる。

Q 今まで整備する補助事業がなかったが、今からはできるので積極的に推進していくが、行政が事務から現場までもつのは対応が遅くなる。スピードをあげ事業を成し遂げるのは、提案された林業専門団体と長期施業管理契約を結ぶのが良く、新年度予算で調査費を付け、速やかに作業に入りたい。

Q 小学校統合の一連の迷走については。

A 町長 私の政策判断で皆さんに迷惑をかけたが、その判断は妥当と思っっている。見解の相違、立場の違いがあり、それをくぐらないと物事は成就しない。結果的には迷走したことがとなり、教育委員会にも迷惑をかけた。反省すべきは反省する。

A 教育長 再編計画は間違っていないと思っっている。今回の決定は教育委員会と

しては不本意ということになる。

教育長としての一連の処理については、経過の段階で教育委員会の思い・委員の思いを町長に伝え切れていなかったと思う。

職責の重さを痛感し、反省している。



町行造林